

### 3. 調査結果の概要

#### 3.1 区全体の緑被等

##### (1) 緑被率－前回同様 17.1%

区全体の緑被率は平成 21 年度調査と同様 17.1%で、現行の「足立区緑の基本計画」の目標値の 18.1%に 1.0 ポイント届かなかった。23 区内での順位は 14 位であった。 <5.1.1/24 ページへ>

##### (2) 樹木被覆地率－1.4 ポイント増加して 9.4%

区全体の樹木被覆地率は平成 21 年度調査と比較して 1.4 ポイント増加し 9.4%で、現行の「足立区緑の基本計画」の目標値の 9.4%を達成した。23 区内での順位は 19 位であった。 <5.1.1/24 ページへ>

#### 3.2 各施設の緑被等

##### (1) 公園施設－樹木被覆地率が 1.8 ポイント増加して 36.6%

公園施設は、平成 21 年度調査と比較して緑被率は 1.1 ポイント増加し 67.9%、樹木被覆地率は 1.8 ポイント増加し 36.6%であった。 <5.1.5/39 ページへ>

##### (2) 幹線道路－樹木被覆率が 1.3 ポイント増加して 8.6%

幹線道路は、平成 21 年度調査と比較して緑被率は 0.3 ポイント減で 9.3%、樹木被覆地率は 1.3 ポイント増の 8.6%であった。また国道の樹木被覆地率は 2.8 ポイント増の 6.5%であった。 <5.1.6/42 ページへ>

##### (3) 公共施設－樹木被覆地率が 0.6 ポイント増加して 11.5%

公共施設は、平成 21 年度調査と比較して緑被率は 1.7 ポイント増の 15.3%、樹木被覆地率は 0.6 ポイント増の 11.5%であった。そのうち、学校施設 117 箇所の樹木被覆地率は 11.6%であった。 <5.1.7/44 ページへ>

##### (4) 公共集合住宅－樹木被覆地率が 3.0 ポイント増加して 19.7%

公共集合住宅は、平成 21 年度調査と比較して緑被率は 0.6 ポイント減の 30.2%、樹木被覆地率は 3.0%増の 19.7%であった。区全体の樹木被覆地率 (9.4%)を大きく上回っている。 <5.1.8/46 ページへ>

##### (5) 大規模開発地(東京電気大学:例)

###### －樹木被覆地率が 11.1 ポイント増加して 11.1%

大規模な開発地(東京電気大学)では、開発により元々草地だったところに樹木が植えられ、樹木被覆地率が 11.1%増加した。 <5.1.9/48 ページへ>

(6)屋上緑地—面積が 4.7ha 増加して 8.0ha

平成 21 年度調査と比較して屋上緑地面積は約 4.7ha 増の約 8.0ha であった。

<5.1.10/50 ページへ>

3.3 地表面温度分布

人工衛星データを画像解析して、足立区の地表面温度を示した。戸建住宅が密集している関原・本木地区や大きな公園が少ない六町・南花畑地区では温度が高く、舎人公園付近や河川沿いでは温度が低くなっていた。

<5.2.1/54 ページ(地表面温度分布図)へ>

3.4 緑視率

平成 21 年度調査と比較して緑視率は 0.3 ポイント増の 14.6%であった。駅前は 1.0 ポイント増の 10.7%、交差点は変わらず 17.3%であった。

<5.2.2/55 ページへ>

3.5 農地

農地は、平成 21 年度調査と比較して 18.7ha 減の 56.2ha であった。減少理由としては、農地転用による宅地造成が大きな原因である。 <5.2.3/59 ページへ>

3.6 アンケート

緑に関する意識調査をアンケート方式で実施したところ、緑を育て守っていくために必要なことを「周囲の理解や協力」と考えている人が 39.6%、「管理していくための援助」と考えている人が 36.5%であった。

また、緑に関することで参加してみたい活動としては「個人の家の前などでの花植や草取り、落ち葉清掃」がと考えている人が 47.9%、「保育園、学校、地域単位で行う花植えや花壇などの管理・清掃」と考えている人が 24.4%であった。

<5.2.4/64 ページおよび資料編/資 54 ページへ>